

8. 処分が必要な廃棄物の種類の増加（定性的影響）

- 濃縮後の劣化ウランについては、劣化ウランの扱いについては、プルサーマル用及び高速増殖炉用のMOX燃料の母材として使用する可能性があったが、リサイクルをやめるとなると、①廃棄物として国内で処分、②海外または国内で再濃縮、などの可能性について検討を進める必要が出てくる。

選択肢	評価
① 処分	・処分方法、環境影響、コストの検討要
② 再濃縮	・技術的、経済的成立性

9. 直接処分にに関する研究開発の必要性

- 各シナリオを構成する技術の成立性は高く、大きな差はないと考えられる。
- ただし、我が国ではこれまでのところ使用済燃料の直接処分技術について未検討である。技術検討小委員会の検討では、高レベル放射性廃棄物ガラス固化体処分に關する地下環境での研究開発等その成果の多くが適用可能であるとされているが、今後解明すべき重要な課題の存在も指摘されており、実用化やそのための安全規制や基準の整備にはさらに研究開発が必要である。